

「好中球減少患者における抗好中球抗体の検出と特性に関する検討」 のご説明と研究へのご協力をお願い

*本研究は、広島大学倫理委員会の審査を受けて、
一宮市立市民病院 院長 志水清和 の許可を得ております。

はじめに

私達は、免疫性好中球減少症のよりよい診断法や治療法を開発するために、医学研究を行っています。本文書は、あなた（※）にこの研究への協力をお願いするため、研究の内容および、あなたが同意するための手続きについて説明したものです。

（※）試料提供をされる方が18歳未満の未成年者であって、同意という行為に際し、親権者等の代諾者を必要とする場合は、「あなた」とは代諾者を含みます。この説明書では以下同様とします。

以下をお読みになって、十分ご理解いただいた上で、研究へのご協力をいただければ幸いです。本研究への参加は皆様の自由意思によって行われるもので、ご協力いただけないからといって、あなたが診療の上で不利益を被ることはいっさいありません。研究にご協力いただける場合には、同意書に署名、捺印をお願いいたします。いったん同意した後でもこれを撤回することができます。希望がございましたら、本研究に関する詳細を示した研究計画書をみる事が可能です。試料の保存中止を希望された場合は、提供いただいた試料は情報とともにプライバシーが保持された状態で廃棄します。

抗好中球抗体と免疫性好中球減少症

好中球は、体内に侵入した病原体をいち早く発見し対応する上で中心的な役割を担う、血液中の細胞です。何らかの理由で好中球を攻撃する「抗体」ができてしまうことがあり、これを「抗好中球抗体」と呼びます。抗好中球抗体によって好中球が過剰に壊されてしまうのが「免疫性好中球減少症」です。新生児ではお母さんが産生した抗好中球抗体が胎児期に胎盤を通じて入ってくることで、乳幼児では自らが抗好中球抗体を産生して、免疫性好中球減少症を発症します。成人では二次的に好中球抗体を産生することがあります。免疫性好中球減少症では病原体に対応する好中球が少ないので、頻繁に感染症にかかることがあります。新生児ではお母さんからもらった抗好中球抗体が無くなれば、乳幼児では抗好中球抗体の産生が止まれば、好中球減少症は改善します。

研究の目的

免疫性好中球減少症において、診断のために重要なのは抗好中球抗体の測定です。抗好中球抗体の測定法には様々なものがありますが、どの測定法が最適かは、残念ながら分かっていません。私達の研究目的の1つ目は、抗好中球抗体を複数の方法で測定し、どの測定方法が良いか検討し、また検出性能の向上を行うことです。

免疫性好中球減少症のお子様について、感染症の重症度やかかる頻度がどのくらいか、予防的に抗菌薬を使った方が良いのか、どのくらいで治っていくのか、といった点についての情報は不十分です。研究目的の2つ目は、患者さんの臨床情報をまとめて、免疫性好中球減少症の患者様へのより良い治療法を見

つけることです。

研究の意義

本研究は、人を対象とする医学系研究です。免疫性好中球減少症が疑われている患者さんで、本研究にご同意が頂ける方を対象とします。

抗好中球抗体の最適な測定法の解明と、免疫性好中球減少症の患者さんへのより良い治療法を探すことを目指しています。

提供いただく試料・情報

末梢血約 2mL

患者情報（年齢、生年月、性別、基礎疾患の有無、感染症罹患の有無）

血液検査の情報（白血球数と分画、CRP）

骨髄検査の情報（細胞数と分画、骨髄巨核球数）

研究の方法

1. 同意の取得

文書により説明を行い書面で同意をいただきます。

2. 血液の採取

採血時に、研究用として 2mL の血液を増量して採取します。

3. 研究方法

採取した血液と患者さんの臨床情報を、誰のものかわからないよう個人情報を加工して広島大学病院小児科へ郵送します。広島大学病院小児科と日本赤十字社とで協力し、様々な方法を用いて患者様の血液中の抗好中球抗体を測定します。

採血を行ってから 1 年後、2 年後、3 年後、4 年後、5 年後に追加の臨床情報を広島大学小児科へ郵送します。好中球数が回復もしくは、他の病気と診断された場合はその時点で追跡調査は終了します。最終的に広島大学病院小児科にて患者様の臨床情報をまとめます。

代表研究機関：広島大学病院小児科

研究責任者：広島大学病院小児科 講師 唐川修平

共同研究機関：日本赤十字社 責任者 高橋大輔

その他の共同研究機関：別紙共同研究機関一覧参照

研究期間

本研究の研究実施期間は研究計画許可日から 2035 年 3 月までを予定しています。

合併症

採血時に、研究用として 2mL の血液を増量して採取します。通常の採血と何ら変わりはなくかなり安全

な手技ではありますが、下記の合併症を起こす可能性があります。

○皮下血腫

穿刺時や、止血が不十分な場合に起こります。十分な圧迫止血（3～5分）をお願いします。

○アレルギー反応

アルコール消毒やラテックス（ゴム手袋）により、かゆみや発疹などのアレルギー症状が出現する場合があります。過去にアレルギー症状が出現した経験がある方は申し出ください。

○神経損傷

穿刺時に手指のしびれやいつもとは違う強い痛みがあり、しばらく持続します。通常の採血行為では太い神経を損傷させる可能性は低く一時的な場合がほとんどです。しかし、このような症状が現れましたら、直ちに採血を中止致しますので、申し出ください。

○血管迷走神経反射

緊張や不安、痛みで起こるとされ、急激に血圧が下がり、めまい（たちくらみ）、意識消失などを起こします。この場合は、ベッドに寝ていただくなどの対応をいたします。

個人情報の保護について

個人情報は研究責任医師が厳密に保管し、また対象者を識別できないように個人情報を加工（符号化）した試料・情報のみを扱うことにより、個人情報の保護を図ります。

本研究により得られたデータは、本研究目的以外には用いないこととします。

本研究により得られた成果は学会・学術専門誌・データベースなどを通じて公表されることがありますが、その際、個人情報が公表されることはありません。

本研究に参加することによる不利益と利益

1. 予想される不利益

通常診療の採血よりも2mlほど採血量が多くなります。ただし採血に伴うリスクは通常診療の採血時と同じで、研究に参加することで特にリスクが高まることはありません。体調に十分配慮しながら行い、気分が悪くなるなど変化がありましたらすぐに適切な処置をいたします。採血に伴う健康被害が生じた場合は通常診療内での対応となり、本研究からの補償はありません。

2. 予想される利益

この研究に参加することで抗好中球抗体の有無が分かり、免疫性好中球減少症の診断がつく可能性があります。またこの研究により免疫性好中球減少症への最適な診断法や対応が分かれば、将来的に利益を得られる可能性はあります。

研究結果の説明・公表

抗好中球抗体の測定結果について、担当医よりあなたへ説明を行います。

あなたの協力によって得られた研究成果は、個人を特定できる情報が明らかにならないようにした上で、学会発表や学術雑誌および公的なデータベースなどで公に発表させていただきたいと思っております。全て個人情報を識別できないように加工した上でまとめられますので、個人情報が公表されることはありません。

研究に関する情報公開を希望される場合は、研究に支障がない範囲でこの研究計画書及び関連資料を閲覧することができますので遠慮なくお申し出ください。

研究から生ずる知的財産権の帰属

研究の進展によっては特許などの知的財産権が生ずる可能性があります。この権利は研究遂行者に属し、試料提供者およびその代諾者には属しません。

研究終了後の試料の取り扱い方針

ご提供いただいた試料や臨床情報は、本研究のためにのみ用いさせていただき、研究終了後5年または研究結果最終公表日から3年のいずれか遅い日まで保管後、個人情報特定されない加工した状態で廃棄します。ただし、ご同意いただければ、対象者を識別できないように個人情報を加工した状態で試料を保管させていただき、将来、本研究に関連した解析研究に使用させていただきたいと思っております。その場合は、改めて倫理審査委員会及び一宮市立市民病院医学系研究倫理審査委員会にて承認された後、研究機関の長の許可を得て使用します。研究概要は広島大学の人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開ホームページ (<https://med.ethics-system.hiroshima-u.ac.jp/rinri/publish.aspx>)へ掲載します。

費用負担について

本研究におけるあなたの費用負担はありません。また試料・情報の提供は無償で、それに対する謝礼はありません。

研究資金・利益相反について

「好中球減少患者における抗好中球抗体の検出と特性に関する検討」は、広島大学の運営費交付金により実施・運営されています。この研究を行う研究者は、この研究の実施に先立ち、個人の収益等、この研究の利益相反（※）に関する状況について、一宮市立市民病院利益相反小委員会による審査を受けています。

（※）利益相反：研究の実施に際して、外部組織との経済的な利益関係などによって、公正で適正な判断が損なわれている状態または損なわれるのではないかと第三者から疑われる状態になることがあります。このような状態を「利益相反」といいます。

本研究に対して、問い合わせ苦情等がありましたら施設の研究責任者や担当者へ申し出て下さい。

【問い合わせ先】

施設研究責任者 所属・職名 _____ 氏名 _____

連絡先 電話 _____ 住所 _____

説明年月日 西暦 年 月 日

説明者の氏名 _____

所属・職名 _____

保管用、試料提供者用、診療録添付用

「好中球減少患者における抗好中球抗体の検出と特性に関する検討」
同意文書

施設長 _____ 殿

私は「好中球減少患者における抗好中球抗体の検出と特性に関する検討」について、説明者から必要かつ適切な説明を受け、その目的、個人情報の保護等について十分理解しました。この研究の試料の提供について同意します。

（説明を受け理解した項目をご自身で✓をいれてください）

- 試料提供には自分の意思で同意すること、いつでも同意が撤回できること
- 研究の目的・意義
- 提供いただく試料・情報
- 研究の方法
- 個人情報の保護について
- 研究に参加することによる不利益と利益
- 研究結果の公表に関する方針
- 知的財産権が生じた場合、その権利が試料提供者に属さないこと
- 本研究終了後の試料の取り扱い方針
- 費用負担がないこと
- 謝礼は支給されないこと

1) 生体試料の提供

同意する 同意しない

2) 臨床情報の提供

同意する 同意しない

3) 研究終了後の試料の取扱いは（次のいずれかに○をつけて下さい）

本研究終了時に速やかに廃棄し、他の目的には使用しない。

本研究終了後も保存して、さらに本研究に関連した解析研究に使用して良い。

4) 提供した試料・情報が将来新たに計画・実施される研究に使用されることについて

同意する 同意しない

西暦 年 月 日 （16歳以上の場合、本人の署名が必要）

試料提供者（本人） _____（自署・代署）

代諾者署名 _____（続柄： ）

_____（続柄： ）

説明者の所属・職名・氏名

所属・職名 _____

氏名 _____

同意撤回文書

施設長 _____ 殿

私は「好中球減少患者における抗好中球抗体の検出と特性に関する検討」について、生体試料と臨床情報の提供協力への同意を撤回したいので、試料および試料から得られたデータ（既に発表されたものを除く）を廃棄してください。

<署名>

西暦 年 月 日

試料提供者（本人） 署名 _____

16歳以上の場合、本人の署名が必要

代諾者署名 _____（続柄： _____）

<確認者>

西暦 年 月 日

所属・職名 _____

氏名 _____

「好中球減少患者における抗好中球抗体の検出と特性に関する検討」
における好中球抗原の表現型および遺伝子型の追加解析
のご説明と研究へのご協力をお願い

*本研究は、広島大学倫理委員会の審査を受けて、
一宮市立市民病院 院長 志水清和 の許可を得ております。

はじめに

私達は、免疫性好中球減少症の病因を探るために、医学研究を行っています。本文書は、あなた（※）にこの研究への協力をお願いするため、研究の内容および、あなたが同意するための手続きについて説明したものです。

（※）試料提供をされる方が18歳未満の未成年者であって、同意という行為に際し、親権者等の代諾者を必要とする場合は、「あなた」とは代諾者を含みます。この説明書では以下同様とします。

以下をお読みになって、十分ご理解いただいた上で、研究へのご協力をいただければ幸いです。本研究への参加は皆様の自由意思によって行われるもので、ご協力いただけないからといって、あなたが診療の上で不利益を被ることはいっさいありません。研究にご協力いただける場合には、同意書に署名、捺印をお願いいたします。いったん同意した後でもこれを撤回することができます。希望がございましたら、本研究に関する詳細を示した研究計画書をみるのが可能です。試料の保存中止を希望された場合は、提供いただいた試料は情報とともにプライバシーが保持された状態で廃棄します。

抗好中球抗体と免疫性好中球減少症

好中球は、体内に侵入した病原体をいち早く発見し対応する上で中心的な役割を担う、血液中の細胞です。何らかの理由で好中球を攻撃する「抗体」ができてしまうことがあり、これを「抗好中球抗体」と呼びます。抗好中球抗体によって好中球が過剰に壊されてしまうのが「免疫性好中球減少症」です。新生児ではお母さんが産生した抗好中球抗体が胎児期に胎盤を通じて入ってくることで、乳幼児では自らが抗好中球抗体を産生することで、免疫性好中球減少症を発症します。成人では二次的に好中球抗体を産生することがあります。免疫性好中球減少症では病原体に対応する好中球が少ないので、頻繁に感染症にかかることがあります。新生児ではお母さんからもらった抗好中球抗体が無くなれば、乳幼児では抗好中球抗体の産生が止まれば、好中球減少症は改善します。

病気と遺伝子

遺伝子とは、体を作る設計図に相当し、人間には約2万2千個の遺伝子があると推定されています。完成された体の機能をバランスよくコントロールするのも遺伝子の役割です。ほとんどの病気は、そのひとの生まれながらの体質（遺伝要因）と、病原体、化学物質、生活習慣など（環境要因）の組み合わせで起こってきます。最近の遺伝子解析技術の進歩により、これらの遺伝要因を明らかにすることが可能になりました。

研究の目的

免疫性好中球減少症の診断のために最も重要なのは抗好中球抗体の測定で、すでに検体を送付いただいております。本研究では更にその病因を詳しく探るため、好中球自体の特性を詳しく調べることを目的としています。具体的には、表現型という好中球の見た目や機能を調べる検査と、遺伝子型という好中球の遺伝子を調べる検査を行います。

研究の意義

本研究は、人を対象とする医学系研究です。免疫性好中球減少症が疑われている患者さんとその両親で、本研究にご同意が頂ける方を対象とします。

免疫性好中球減少症の病因の解析を目指しています。

提供いただく試料・情報

末梢血約5mL

研究の方法

1. 同意の取得

文書により説明を行い書面で同意をいただきます。

2. 血液の採取

採血時に、研究用として5mLの血液を増量して採取します。

3. 研究方法

採取した血液と患者さんの臨床情報を、誰のものかわからないよう個人情報を加工して広島大学病院へ郵送し、好中球抗原のフローサイトメトリー解析をおこないます（表現型）。また上記の検査が不可能の症例については、いただいた血液からDNAを抽出し、好中球抗原のタイプを決定する遺伝子をPCR法を用いて解析をいたします（遺伝子型）。上記の結果は好中球抗体の結果とともに広島大学から担当医に伝えられ、担当医よりあなたへ結果報告がなされます。

代表研究機関：広島大学病院小児科

研究責任者：広島大学病院小児科 講師 唐川 修平

共同研究機関：日本赤十字社 責任者 高橋大輔

その他の共同研究機関：別紙共同研究機関一覧参照

研究期間

本研究の研究実施期間は研究計画許可日から2035年3月までを予定しています。

個人情報の保護について

個人情報は研究責任医師が厳密に保管し、また対象者を識別できないように個人情報を加工（符号化）し

た試料・情報のみを扱うことにより、個人情報の保護を図ります。

本研究により得られたデータは、本研究目的以外には用いないこととします。

本研究により得られた成果は学会・学術専門誌・データベースなどを通じて公表されることがありますが、その際、個人情報が公表されることはありません。

本研究に参加することによる不利益と利益

1. 予想される不利益

通常診療の採血よりも5mlほど採血量が多くなります。ただし採血に伴うリスクは通常診療の採血時と同じで、研究に参加することで特にリスクが高まることはありません。ご両親については本研究のために採血を新規でおこないます。体調に十分配慮しながら行い、気分が悪くなるなど変化がありましたらただちに適切な処置をいたします。採血に伴う健康被害が生じた場合は通常診療内での対応となり、本研究からの補償はありません。

2. 予想される利益

本研究に参加することで新生児同種免疫性好中球減少症の診断がつく可能性があります。本研究により新生児同種免疫性好中球減少症の病因が分かれば、将来的に診断や治療法が改善され利益を得られる可能性はあります。

研究結果の公表

抗好中球抗体と好中球の解析結果について、担当医よりあなたへ説明を行います。

あなたの協力によって得られた研究成果は、個人を特定できる情報が明らかにならないようにした上で、学会発表や学術雑誌および公的なデータベースなどで公に発表させていただきたいと思っております。全て個人情報を識別できないように加工した上でまとめられますので、個人情報が公表されることはありません。

研究に関する情報公開を希望される場合は、研究に支障がない範囲でこの研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので遠慮なくお申し出ください。

研究から生ずる知的財産権の帰属

研究の進展によっては特許などの知的財産権が生ずる可能性があります。この権利は研究遂行者に属し、試料提供者およびその代諾者には属しません。

研究終了後の試料の取り扱い方針

ご提供いただいた試料や臨床情報は、本研究のためにのみ用いさせていただき、研究終了後5年または研究結果最終公表日から3年のいずれか遅い日まで保管後、個人情報が特定されない加工した状態で廃棄します。ただし、ご同意いただければ、対象者を識別できないように個人情報を加工した状態で試料を保管させていただき、将来、本研究に関連した解析研究に使用させていただきたいと思っております。この場合は、改めて倫理審査委員会及び一宮市立市民病院医学系研究倫理審査委員会にて承認された後、研究機関の長の許可を得て使用します。研究概要は広島大学の人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開ホームページ(<https://med.ethics-system.hiroshima-u.ac.jp/rinri/publish.aspx>)へ掲載し

ます。

費用負担について

本研究におけるあなたの費用負担はありません。また試料・情報の提供は無償で、それに対する謝礼はありません。

研究資金・利益相反について

「免疫性好中球減少症の病因の解析」は、広島大学の運営費交付金により実施・運営されています。この研究を行う研究者は、この研究の実施に先立ち、個人の収益等、この研究の利益相反（※）に関する状況について、一宮市立市民病院利益相反小委員会による審査を受けています。

（※）利益相反：研究の実施に際して、外部組織との経済的な利益関係などによって、公正で適正な判断が損なわれている状態または損なわれるのではないかと第三者から疑われる状態になることがあります。このような状態を「利益相反」といいます。

遺伝カウンセリングの体制

あなたが、病気のことや遺伝子解析研究あるいはその結果について、不安に思うことがあったり、相談したいことがある場合には、遺伝カウンセリングを受けることができます。ただし、遺伝子診療科にて遺伝カウンセリングを行う場合、カウンセリング費用は自己負担となります。

本研究に対して、問い合わせ苦情等がありましたら施設の研究責任者や担当者へ申し出て下さい。

【問い合わせ先】

施設研究責任者 所属・職名 _____ 氏名 _____

連絡先 電話 _____ 住所 _____

説明年月日 西暦 年 月 日

説明者の氏名 _____

所属・職名 _____

保管用、試料提供者用、診療録添付用

「好中球減少患者における抗好中球抗体の検出と特性に関する検討」
における好中球抗原の表現型および遺伝子型の追加解析への同意文書

（採血するすべての方（患者や両親など）からそれぞれ同意が必要です）

施設長 _____ 殿

私は「免疫性好中球減少症の病因の解析」について、説明者から必要かつ適切な説明を受け、その目的、個人情報保護等について十分理解しました。この研究の生体試料と臨床情報の提供について同意します。（説明を受け理解した項目をご自身で✓をいれてください）

- 試料提供には自分の意思で同意すること、いつでも同意が撤回できること
- 研究の目的・意義
- 提供いただく試料・情報
- 研究の方法
- 個人情報の保護について
- 研究に参加することによる不利益と利益
- 研究結果の公表に関する方針
- 知的財産権が生じた場合、その権利が試料提供者に属さないこと
- 本研究終了後の試料の取り扱い方針
- 費用負担がないこと
- 謝礼は支給されないこと
- 遺伝カウンセリングの体制について

1) 生体試料の提供

() 同意する () 同意しない

2) 臨床情報の提供

() 同意する () 同意しない

3) 研究終了後の試料の取扱いは（次のいずれかに○をつけて下さい）

- () 本研究終了時に速やかに廃棄し、他の目的には使用しない。
- () 本研究終了後も保存して、さらに本研究に関連した解析研究に使用して良い。

4) 提供した試料・情報が将来新たに計画・実施される研究に使用されることについて

() 同意する () 同意しない

西暦 年 月 日 （16歳以上の場合、本人の署名が必要）

試料提供者（本人） _____（自署・代署）

代諾者署名 _____（続柄： ）

_____（続柄： ）

説明者の所属・職名・氏名

所属・職名 _____

氏名 _____

同意撤回文書

施設長 _____ 殿

私は「好中球減少患者における抗好中球抗体の検出と特性に関する検討」における好中球抗原の表現型および遺伝子型の追加解析について、生体試料と臨床情報の提供協力への同意を撤回したいので、試料および試料から得られたデータ（既に発表されたものを除く）を廃棄してください。

<署名>

西暦 年 月 日

試料提供者（本人） 署名 _____

16歳以上の場合、本人の署名が必要

代諾者署名 _____（続柄： _____）

<確認者>

西暦 年 月 日

所属・職名 _____

氏名 _____

別紙 共同研究機関一覧 (2024.12.20 時点)

機関名	責任者		機関名	責任者
岐阜大学	大西秀典		防衛医科大学校	今井耕輔
東北大学病院	笹原洋二		埼玉医科大学病院	岡田慶介
兵庫県立尼崎総合医療センター —	小林健一郎		熊本赤十字病院	山下貴大
京都市立病院	石田宏之		島根県立中央病院	金井理恵
鹿児島市立病院	児玉祐一		福岡市立こども病院	小野山さかの
岡山大学病院	鷲尾佳奈		帯広協会病院	青柳勇人
京都大学医学部附属病院	滝田順子		東京都立小児総合医療センター —	堀越裕歩
公益財団法人田附興風会 医学研究所北野病院	三上真充		京都第一赤十字病院	冨井敏宏
埼玉県立小児医療センター	康勝好		さいたま市民医療センター	古谷憲孝
NTT 東日本札幌病院	近藤謙次		筑波大学附属病院	福島紘子
国立国際医療研究センター病院	望月慎史		社会医療法人生長会 阪南市民病院	芳山恵
群馬県立小児医療センター	河崎裕英		大阪府済生会富田林病院	西一美
天理よろづ相談所病院	芝剛		山形市立病院済生館	前田勝子
京都府立医科大学	大曾根眞也		神戸市立西神戸医療センター	堀 雅之
国立病院機構仙台医療センター —	久間木悟		名古屋大学大学院医学系研究科	高橋義行
神奈川県立こども医療センター —	柳町昌克		綾部市立病院	茂原慶一
東海大学医学部附属病院	山本将平		獨協医科大学病院	福島啓太郎
川崎市立川崎病院	森和広		山口大学医学部附属病院	市村卓也
名古屋市立大学病院	亀井美智		獨協医科大学埼玉医療センター —	大戸佑二
富山市立富山市民病院	和田拓也		焼津市立総合病院	熊谷淳之
京都府立医科大学附属北部医療センター	眞弓あずさ		独立行政法人 地域医療機能推進機構 徳山中央病院	立石浩
新潟大学医歯学総合病院	今村勝		北海道大学病院	竹崎俊一郎
千葉県こども病院	落合秀匡		済生会横浜市東部病院	東聡美

機関名	責任者		機関名	責任者
兵庫県立こども病院	長谷川大一郎		群馬大学医学部附属病院	原 勇介
京都第二赤十字病院	加納原		公立昭和病院	香取竜生
富山西総合病院	三浦正義		北九州市立八幡病院	安井昌博
日本医科大学付属病院	植田高弘		太田記念病院	堀尚明
独立行政法人国立病院機構福岡病院	曳野俊治		津山中央病院	梶俊策
日本赤十字社和歌山医療センター	横山宏司		浜松医科大学医学部附属病院	坂口公祥
横浜労災病院	小笹浩二		国立病院機構 舞鶴医療センター	藤田尚江
国立病院機構熊本医療センター	水上智之		市立旭川病院	中嶋雅秀
日本大学病院	鈴木潤一		昭和大学江東豊洲病院	阿部祥英
甲南医療センター	太田國隆		独立行政法人国立病院機構福山医療センター	藤原倫昌
倉敷中央病院	納富誠司郎		愛媛大学医学部附属病院	森谷京子
公立陶生病院	森下雅史		静岡県立こども病院	渡邊健一郎
東京慈恵会医科大学附属柏病院	南波広行		順天堂大学	藤村純也
宇治徳洲会病院	篠塚淳		自治医科大学附属さいたま医療センター	山根大明
福山市民病院	村岡倫子		加古川市民病院機構 加古川中央市民病院	森沢猛
長崎大学病院	舩越康智		京都山城総合医療センター	内藤岳史
社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院	白井憲司		沖縄県立中部病院	江花涼
産業医科大学	本田裕子		昭和大学病院	水野克己
名鉄病院	渡邊修大		那須赤十字病院	小川美織
伊勢崎市民病院	今井朗		岡崎市民病院	安藤将太郎
昭和大学横浜市北部病院	池田裕一		尾道総合病院	岩瀧真一郎
北里大学病院	江波戸孝輔		三重大学医学部附属病院	平山雅浩

機関名	責任者		機関名	責任者
国立成育医療研究センター	石黒精		日立総合病院	諏訪部徳芳
奈良県西和医療センター	吉澤弘行		姫路赤十字病院	中川卓
東京慈恵会医科大学葛飾医療センター	高島典子		秋田赤十字病院	土田聡子
香川大学医学部	門脇則光		近畿大学奈良病院	虫明聡太郎
市立福知山市民病院	諸戸雅治		JCHO 群馬中央病院	河野美幸
県北西部地域医療センター国保白鳥病院	松久雄紀		東京慈恵会医科大学附属第三病院	成瀬隼人
さいたま市立病院	一色恭平		千葉市立海浜病院	小野真
東京女子医科大学附属足立医療センター	松岡尚史		川崎医科大学	大石智洋
広島市民病院	西村志帆		聖隷沼津病院	幸田昌樹
藤田医科大学病院	田中真己人		京都中部総合医療センター	木原明生
自治医科大学附属病院	嶋田明		広島市立北部医療センター安佐市民病院	荒新修
札幌医科大学附属病院	山本雅樹		足利赤十字病院	柴田映道
岩手医科大学	三浦翔子		東京都立広尾病院	小川えりか
東京女子医科大学附属足立医療センター	松岡尚史		佼成病院	倉山亮太
大津赤十字病院	大封智雄		佐世保市総合医療センター	江崎裕幸
京都済生会病院	勝見良樹		徳島県立中央病院	渡辺浩良
東京歯科大学市川総合病院	福島裕之		静岡市立静岡病院	酒井秀政
春日井市民病院	前田徹		雪の聖母会 聖マリア病院	日高智子
自衛隊福岡病院	森西洋一		岐阜県総合医療センター	湯澤壮太郎
飯塚病院	岡松由記		茨城県立こども病院	加藤啓輔
島根大学	竹谷健		鳥取大学	奥野啓介
滋賀県立総合病院	浅越康助		奈良県立医科大学	石原卓
九州大学	石村 匡崇		愛育病院	金谷 穰
新潟県立がんセンター新潟病院	笠原靖史		静岡済生会総合病院	高柳文貴
高知医療センター	西内律雄		京都桂病院	菱澤方勝
長岡赤十字病院	渡辺健一		山形大学医学部附属病院	三井哲夫

機関名	責任者		機関名	責任者
横浜市立大学附属病院	伊藤秀一		山梨大学医学部附属病院	犬飼岳史
愛媛県立中央病院	永井功造		豊川市民病院	中井英剛
東京女子医科大学	瀬尾幸子		日本大学医学部附属板橋病院	下澤克宜
聖マリアンナ医科大学	長江千愛		高槻病院	石河慎也
金沢医科大学	伊川泰広		三豊総合病院	佐々木剛
市立四日市病院	牛嶋克実		青森県立中央病院	渡部潤子
那覇市立病院	新垣洋平		桑名市総合医療センター	森谷朋子
墨東病院	植野 優		佐賀大学	西 眞範
松山赤十字病院	河上早苗		慶應義塾大学病院	伊藤淳平
埼玉病院	仲澤麻紀		東京歯科大学市川総合病院	福島裕之
兵庫県立淡路医療センター	西畑昌大		日本鋼管病院	須山孝宏
済生会新潟県央基幹病院	小嶋絹子		日本赤十字社愛知医療センタ 一名古屋第二病院	側島健宏
市立伊丹病院	指原淳志			